

令和2年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立袋井特別支援学校 磐田見付分校 P T A
学 校 名	静岡県立袋井特別支援学校 磐田見付分校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	48人

1. 使用状況

寄贈物品名	電動糸のこ盤（三段変速）
使用学年及び人数	自主生産作業 クラフト班 木工グループ 8人
使用頻度	毎週2回(6時間)を通年で使用している。
使用状況	クラフト班の活動の中で、毎週2回(約6時間)、直径約20cmのウッドランプ(木製のランプシェイド)の波線を裁断する際や、折り畳み椅子の脚(曲線部分)の成形に使用している。
物品の使用による変化や効果	既存の糸のこ盤にはない、スピード調整(低速・中速・高速)ができることで、曲線部分を多くカットするウッドランプには、非常に適している。スピード調整のない糸のこ盤では、スピード任せに切ってしまう、曲線部分からはみ出してしまうことがあったが、「低速」では、糸のこ盤に慣れていない生徒が、練習用に設定し、「中速」で力加減や曲線部分のコツをつかみ、「高速」で手際良く切っていくという段階を踏まえて活用することができるようになった。また、奥行きが40cm程あるため、比較的大きな材料をカットすることが可能になり、今後規格が変わっても対応できるようになった。生徒たちは、自分の能力に応じてスピード調整を行うことで、正確性が格段に高まった。1枚平均20分程で切ることができるようになり、昨年度までは年間30個のウッドランプの製作を今年度は50個を目標に取り組んでいる。
今後の活用の見通しや課題	今後もウッドランプの製作を中心に活用していく。当初の目的であった変速機能を駆使しての正確性の向上や、糸のこ盤の台数が増加することによる生産性の向上が達成されつつある。ウッドランプが本校クラフト班の看板製品に定着してきているため、新製品の開発にも取り組んでいきたい。
その他希望や所感など	

2. 活用の様子



ウッドランプの裁断工程の様子です。写真の生徒は1年生で、ウッドランプを作るためにクラフト班を希望し、目的意識を高くもって取組んでいます。糸のこ盤を操作することが「楽しい」「飽きない」と毎時間集中して作業を行っています。

完成したウッドランプ

